



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年にひとりの日本人がインドシナ難民救援に参加したことを契機として誕生しました。以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 55 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「ごころとからだの飢餓」に応える働きをしています。



テイクアウトボックスの可愛いイラストは、うぐすの、みなみなみさんが協力しています。

☑ 食べ残しゼロ 「テイクアウトボックス」で わたしから始める！

農林水産省の統計によると、日本では、家庭から出るゴミの実に 3 分の 1 が、食べ物のゴミ (食品廃棄物) といわれています。食べ物の多くを外国から買っている (食料の 6 割は輸入) 私たちが、大量の食べ物を捨てている、これは少しでも改善したいですね。

当機構の協力会社で、フェアトレード商品を扱うキングダムビジネスでは、このほど外出時に食べ残したものを持ち帰ることができるように「テイクアウトボックス」を商品化しました。折りたたみ式で洗って繰り返し使うことができます。ぜひ家庭や学校、職場などで活用してください。まず、わたしからは始めることができる第一歩として使ってみてください。

詳しくは下記まで直接ご連絡下さい。

販売元: (株)キングダムビジネス

価格: 1 ケ 900 円 (税込)

電話: 072-940-6814

同社の事業収益は、日本国際飢餓対策機構を通して世界で飢餓・貧困と闘う人々に用いられます。

ハンガー・ゼロ・サポーター 1 万人大募集

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
**お電話でも申し込み
できます。各事務所
までおかけ下さい。**



2008 年に初来日を果たし、昨年も各地で大好評を頂きました「ワトトゴスペルコンサート」が、今年も名古屋・豊橋・岐阜・浜松で開催されます。

【WATOTO とは?】

WATOTO ゴスペルクワイヤーのメンバーは、全員が親を内戦やエイズで失った孤児たちです。彼らは絶望の中から生きる希望を見出し、その喜びを伝えようと世界ツアーを行っています。素晴らしい歌声、躍動感あふれる踊り、生き生きと命の輝きがあふれ出ている子どもたちの



表情や映像を交えた体験談は、コンサートに来て下さるすべての方に希望と感

動を与えてくれます。

ワトトコンサートについての問い合わせは愛知事務所まで。

★2010 ワトトゴスペルコンサート開催日程

9 月 10 日 ④岐阜市民会館 大ホール

9 月 11 日 ⑤金城学院大学 ランドルフ記念講堂

9 月 13 日 ⑥ライブポートとよはし コンサートホール

9 月 15 日 ⑦はまホール (浜松市教育文化会館)

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛 (大阪市など)、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます！

■発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
	Web サイトアドレス http://www.jifh.org/ e メールアドレス general@jifh.org	愛知	〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■郵便振替	00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ※支援金は随時受け付けております。	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
		沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540



携帯サイト



日本国際飢餓対策機構

2010
No.241

8

飢餓対策 News



世界の貧困と飢餓は、今も続いています。拡大中でもあります。

ですから、救済の働きはもっと大きく、力強くしていかなければなりません。そのために、日本国際飢餓対策機構は、政府の法律改正の機会に法人化して活動を推進することにしました。そして、体制も新しくしました。

2010 年 6 月 30 日をもって、私は 29 年間奉仕させていた

だいた理事長職を退きました。今後は、法人の活動を側面から支える「賛助会」の全国会長として関わることになりました。ご支援を感謝いたします。

法人の新理事長には新進気鋭の岩橋竜介牧師を、常務理事にはベテランの職員の中から清家弘久が、評議員会と理事会で一致して推薦されました。

新法人の職員たちも、単に今までの働きを踏襲するというだけのものでなく、世界の貧困と飢餓に苦しむ人々のために、決意と献身を確認してから、参加していただきました。

今までの皆様方の祈りと愛のご支援と惜しみないご協力

を心から厚く感謝いたします。今後の新法人と職員たちの活動のために大切なご支援を続けて賜りますようお願いいたします。

新体制移行に際して、良くない噂を流されましたが大過なく、事務所も働きも滞ることなく進めることができました。当機構が今日まで 29 年間、大波小波に会うことはありませんが、世界の多くの災害の被害者や、おびたしい数の

飢えに苦しむ人々の救済や、加えて大切な未来のある人々の育成や開発教育のために、微力な

から挑戦し貢献することができましたのは、皆様のご理解とご支援の賜物であり、創造主の変わらないおたすけでありました。

世界はさらに大きな飢餓に突入しますので、できる限り愛の心をお分かちくださいますようお願いいたします。

皆様の上に主の大きな祝福をお祈りします。 在 主

日本国際飢餓対策機構 前理事長

2010 年 7 月 賛助会全国会長 堀内 顕

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

国連の情報によると、干ばつによる飢饉が心配されている西アフリカの国々、特にニジェールとチャドは飢饉が深刻化しています。

ニジェールでは国民の半数以上に当たる700万人が食糧の入手が困難、その内330万人が食糧を手に入れることができてなくなっています。

この国では2005年に干ばつと砂漠バツタの発生による被害を受け、深刻な食糧不足に陥りました。

遊牧民が多く住むアバラック地域で

深刻化するニジェールの飢饉 極度の栄養失調状態の子どもが急増

は、2007年の9月から雨が降らず、羊や牛54,000頭が死亡しました。生き残った家畜も体重が激減したため、取引価格が下がり、たとえ売れたとしても僅かな食糧分にしかなりません。

同地域では栄養失調の子ども、やせた牛、ゆでた雑草を食べる家族の風景が日常化しています。今年6月までに、国内各地で国連が運営する給食センターを訪れる極度の栄養失調の子どもたちの数が、8万人を超えました。

雑草を食べて生き延びる

国際協力団体Oxfamのスタッフの報告によると、子どもが4人いるある男性は、「去年、家族の食べ物を買うために牛を二頭売らなければならませんでした。そしてこれが最後の一头でした」と言う

と、ハエのたかっている乾いた牛の死骸を指差し、「これが9日前に死にました、少しだけあったとうもろこしも何ヶ月も前にな

くなり、家族は雑草にキャッサバの粉を混ぜたものを食べて生きのびています。この困難を乗り越えられるように、神に祈っています」と言ったということです。

アフリカは日本からはたしかに遠い国です。そこで人々が食べ物がなくて死に直面していると聞いて

も、あまり現実のこととして捉えられないかもしれません。

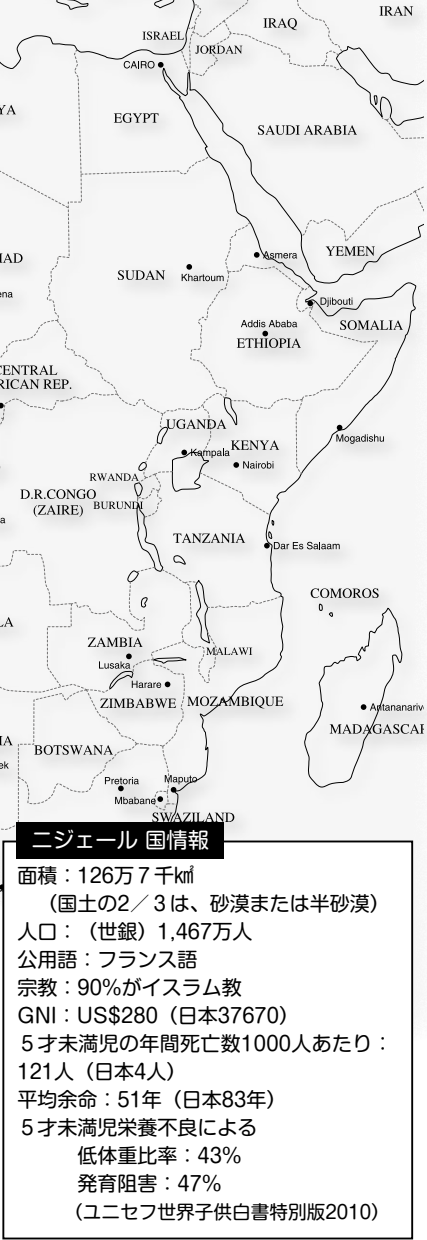
しかし、“おなかがすいた”と訴える声さえ出せない子どもたちを思う時、食べ物が豊かに与えられている私たちにいますぐにできることがあるはず

です。

行動に移しましょう！当機構では今、「ハンガー・ゼロ・アフリカ」の実現のために、応援してくださるサポーターを求めています。詳しくは各事務所に連絡いただくか、または専用のウェブサイトをご覧ください。いつでもサポーターとなって参加することができます。



当機構では9月中旬にニジェールなど飢饉が深刻な西アフリカ数カ国にスタッフを派遣し、現地の最新の状況を調査して、支援活動を強めていきます。



ニジェールで 実施中の活動

現在、現地の協力団体のSSA（サマリタンストラテジー・アフリカ）、バルナバス・ファンドを通じて、中部の半砂漠地帯にあるコミュニティー（マラディ、ズィンダ、ディファ、オアラム各地区に住む1,434家族に対して食糧支援を行っています。提供されている食糧は、標準的な6人家族に対して、2～3ヶ月分の食糧となる米50kgとトウモロコシ100kgで家族数がそれよりも多い場合は、さらに増量して提供しています。なおプログラムの内容は今後の現地の状況の変化により変更することもあります。

…忘れ得ぬ瞳…

※ その2 ※

1996年、確か6月から7月頃、私はアフリカ大陸の中央に位置する小国・ルワンダ共和国の北西に位置するギセニと言う町に滞在していました。

ルワンダは、1994年4月ハビャリマナ大統領が暗殺された直後から殺戮が始まり、3ヶ月余りで当時の人口の10パーセント以上に当たる80万人余りが殺害されるという大虐殺が起きました。当時のフツ系政権の急進派がフツ系住民を扇動して行われた、ツチ系住民の無差別殺戮でした。殺戮の対象となったのは、ツチ系住民とこれに反対した一部のフツ系住民でした。同年7月、主にツチ系難民で組織されたルワンダ愛国戦線によってルワンダ全土が制圧され、新政権が樹立しました。新政権は、ツチ系住民が主体であるため、報復を恐れたフツ系兵士、民兵、住民が難民として近隣諸国へ流出し、その数は推定200万人と言われていました。この内の一つに、ゴマの難民キャンプがありました。

国境に面した町ギセニから越境すると、コンゴ民主共和国にゴマという町があります。上記の理由でルワンダからゴマへ100万以上の人たちが流出して形成された、巨大な難民キャンプが在りました。1996年6月、私はゴマの難民キャンプでの働きを終えて、次の任地が決まるまでギセニで待機していました。

私が属していたFH/R(Food for the Hungry Rwanda)は、騒乱によって家族からはぐれた子どもたちが肉親と再会できるよう、一軒一軒家を訪ねて子どもたちの所在、出身地、はぐれた場所などを確認

し、新聞やラジオなどで手がかりを探していました。この中には、11人の実子の内ただ一人生存している幼い娘と、ラジオ放送を聞いて遠くから駆けつけた父が再会を果たすという、感動的なケースがありました。私は、この働きを視察するためスタッフに同行して、家々を回っていました。



そんなある日、ルワンダ人のスタッフ数人と私は、食堂で昼食を取っていました。私たちが注文した品目は、キャベツの油炒め、煮たバナナ（果物ではないもの）とご飯、そして清涼飲料のファンタでした。

この食堂は、三方が壁やドアで仕切られず解放されていて、外からも見通すことができました。そこへ一人の少年が、食堂の柱を抱くようにして私をじっと見つめているのでした。見たところ11から13歳位の少年は、みすぼらしい衣服と汚れた身体から、「ストリートボーイ」と呼ばれる路上生活者であることは、

明らかでした。身振りや手振りがなく、一言も語らず無言のまま凝視する少年の目は、深刻な空腹を訴えて懇願する哀しみに満ちたものでした。周辺には、彼以外にも何人かのストリートボーイたちがたむろしていました。

この時、私が所持していたお金は僅かで、もう一人分の食事を注文することは出来ませんでした。その上、仮に一人の少年を食事に招いたなら、他のストリートボーイたちが同じように求めてくるでしょう。成すすべもなく、私はその場を立ち去ったのでした。

しかしながら、あの時、半分以上を残した私の食事にファンタを1本注文すれば、立派な一食になりました。たとえ周辺に居たストリートボーイたち全員を招くことは出来なくても、一人を招くことは出来ました。毎日でなくても、あの日一食だけ食事をする事が出来れば、少年は空腹で苦しい一日を過ぎなくてもすみました。勇気のなかった自身が悔やまれます。

ストリートボーイの多くが孤児です。孤児たちは、物心両面の多くの課題を抱えて生きていますが、ルワンダの国内に今も80万人余りの孤児が存在すると報告されています。



竹内 緑
1993年以来、ソマリア、旧ザイール、アンゴラ、エチオピアで緊急支援に従事。2006年9月からルワンダのカモニ郡でトラウマ被害者支援に取り組む。



わたしにもできること

日本では、アジアなどの開発途上国で作られた日用品や食べ物がとても安く売られています。物を安く売って利益を得るには、さらに安く仕入れる必要があります。そのためにそれを作っている開発途上国の人たちを、とても安い賃金で雇い、農産物などは農薬や化学肥料をたくさん使って大量に作らせたりします。作る人たちはお金を少ししかもらえず、子どもも働かなければ食べていけない、農薬などで病気になるなど、困ったことが起こっています。

「作る人が十分暮らしていける値段や賃金を払って、貧困から抜け出せるような取引をしよう」とフェアトレード（公正な貿易）運動が1960年代にヨーロッパを中心に広まりました。環境を破壊しないような方法で、安全なものを作り、私たちも安心して買うことができるように、また子どもの権利が守られることも目標にしています。

フェアトレードの製品にはコーヒーやチョコレート、バナナなどの食品だけではなく、手工芸品や衣料品もあります。衣料品では、原料の栽培から、糸にする、布にする、染める、縫うなどたくさんの方が関わり、それだけ多くの仕事を作り出すことができます。

買い物をするとき、フェアトレードのものを選ぶことで、開発途上国の人たちの暮らしが少しでも良くなる手助けをすることができることを、おうちの人に伝えましょう。わたしにできる第一歩ですね。



フェアトレードって何？

① こんにちはわたしフェアトレードのチョコレート

フェアトレード？

「フェア」は英語で「公正な」という意味「トレード」は貿易なので「フェアトレード」は公正な貿易という意味よ

② そういわれても???

原料や製品などを作る人にきちんとした賃金が支払われ、生活の向上を目指しているのがフェアトレードなの

③ たとえば日本で200円のチョコを買っても原料の力カオ農園に支払われるのは1円（0.5%※）

農園で働く人たちが受け取るお金は、もった少ない

輸送加工販売の会社へ

④ 働いてもこれじゃ子どもを学校にもやれない

子どもも働くしかない

こんな買い方はよくない、と考えた人たちがいて

⑤ おとなが働いてきちんとお金をもらえば、子どもは働く必要がなくなるでしょ

作る人が十分暮らしていける値段でいつも買い取る仕組みがフェアトレードなの

⑥ カカオ豆をフェアトレードの会社が買い取るようになつてからは

おとなが働くだけでなく食べたりいけるようになってきた

ぼく学校に行けるんだ

⑦ じゃあ、ぼくがチョコを食べるときフェアトレードのものを買おう...

私たちが安心して暮らせる手伝いを君たちはしてくれてることに感謝してる

⑧ フェアトレードのものはチョコだけじゃないよ色々あるよ

ぼくのおこづかいじゃ足りないや...お母さんおこづかいちょうだい！

それとこれとは話が別！

※「児童労働」アムネスティ・インターナショナル日本著より

世界里親会 活動地のこども



小学生でも落第？

現在、当機構が支援している里子は5カ国で2,300人。1,500人あまりの里親さんが支援してくださっています。開発途上国の里子には、日本の私たちが理解に苦しむような事情が少なからずあります。子どもたちをできるだけ継続してご支援いただくために、里親さんの疑問に当機構スタッフがそのつどお答えしていますが、同じ様な疑問をお持ちになった方々のために、ニュースレター誌上でもご報告致します。

里親さんからの質問

「先日、里子の成長記録を受け取りました。見ると、私の里子はこれで2年続けて落第しています。正直なところがっかりしました。この子の落第の背景になにがあるのか、本当のところを教えてください。」

A. 各国世界里親会スタッフの回答



ウガンダ

学校によりますが、全教科平均点以上をとる必要があります。小学校では英語、算数、社会、理科を学び、中学校では選択したコースによって10-15教科を学びます。



カンボジア

主要教科（算数、理科、社会、クメール語）で、学校が定めた合格点をとる必要があります。



バングラデシュ

選択している全教科で、最低30%の得点を取らねばなりません。



フィリピン

10-12教科（コンピューター、道徳、音楽、美術、体育、フィリピン語、家庭経済、社会、算数、英語、理科等）で学校が定めた合格点を取る必要があります。



ボリビア

小学校では10教科、中学校では10-15教科、それぞれ平均点以上を取る必要があります。

.....

小・中学校ではまったく落第のない日本と比べるとなかなか厳しいですね。実際、最も少ないカンボジアでは2%、フィリピンやボリビアでは10%、バングラデシュやウガンダでは20-30%もの子どもたちが、毎年落第しています。

ではなぜ勉強できないのか、次号で子どもたちの勉強を妨げている要因についてご報告します。

里親募集

世界里親会では、貧困と闘う子どもとその家族を支援して下さる里親を求めています。カンボジアとウガンダでは支援を待つ約100名の子どもがいます。ぜひ里親になってください。



フィリピン・プレイズエメラルド国際学校支援

写真④教室で学ぶ生徒、写真⑤手前の建物がスーパ
キッチン奥にプレイズエメラルド国際学校



将来、貧しい子どもを助きたい

フィリピン・マニラのケソン市にあるスーパキッチンには1998年に日本のロータリークラブなどの支援によって建てられ、近隣の貧困世帯の人々への給食や職業訓練が提供されてきました。その活動が発展していく過程で、隣接地に「プレイズエメラルド国際学校」が建てられ、貧困家庭の幼児（就学前）から中学4年生まで200名弱が学びを続けています。日本国際飢餓対策機構は、この働きを応援するために今年度より同校への支援を決定し、子どもたちの教育の必要のために12,000ドルを支援しました。今回はこれまで日本のキリスト教会を通じて応援を続け、現地を訪問をされている平林けい子さんの手記を紹介します。

私は、フィリピンを3回訪れました。1回目は、関西にある福音自由教会の婦人会で支援しているマニラの貧困地区にあるプレイズエメラルド国際学校です。私たちは一ヶ月100円から募金をして送ってきました。ここでは200人ほどの子どもが元気に学んでいました。

2回目の訪問は、その学校の卒業式、進級式でお祝いの言葉を述べるためでした。白い四角の学士帽にガウン姿の生徒は、一人ひとり名前を呼ばれると、大きな拍手の中を、小学生から高校生まで母親あるいは、父親と手をつないで壇上に上がってきます。どの子どもの親も実にうれしそう

で、誇らしげです。メダルと、表彰される理由が書かれたリボンをつけてもらいます。「積極的」「朗らか」「親切」「素直」「従順」「時間厳守」など、人格形成の基盤となるこれらの点を、教師がしっかり注目して褒めてあげることの大切さを教えられました。

その時、以前エメラルド国際学校

の子どもからもらった手紙を思い出しました。「わたしは、小学校を卒業できて感謝です。今ハイスクールで学んでいます。どうか支援をやめないでください」

兄弟がたくさんいる場合そのうちの何人かしか学校へ行けません。また、父親が出稼ぎに行行ってやっと小



応援を続けている子どもたちの卒業・進級式にて

学校を終える子どももいるのです。本当に、節約に生きる家族の協力がなければ学べないのです。だから卒業や進級が家族にとって大きな、大きな喜びになります。もう一つ教えられたことは、子どもたちの夢です。手紙の中で次のように書いていました。「私は大きくなったら、私のように貧しい子どもを教える先生

になりたい」「私のように貧しい子どもが病気になったら世話をする看護師になりたい」「ぼくのように貧しい子をまもるために警察官になりたい」

貧しくても失われないもの

みんな、だれだれのために、何々になりたいと書いていました。自分のためよりも他者のために何々になりたいという発想に胸が痛くなりました。

日本の中で、豊かさゆえに失われているもの、フィリピンで貧しくても失われないものは何か、立ち止まって考えさせられました。貧困と闘いながら生き

るフィリピンの人たちが、全能の神様を信じて力強く歩めるように祈りたいと思います。そして、私たちが受けている祝福にもっともっと感謝して、まわりの弱い、困っているお友達に関心をもって、その人たちのために何ができるかを考え、行動する人になりたいと思いました。

長岡福音自由教会員 平林けい子

あなたも支援の輪にご参加ください!! このエメラルド国際学校への支援を希望される方は、当機構までお問い合わせください。